

屋中だより



令和5年5月8日No.3

千曲市立屋代中学校

学校長 柳澤 正寿

(文責) 沖 美鈴

<http://www.chikuma-ngn.ed.jp/~yashiroih/>

人権教育強調月間が始まりました

5月は、前期人権教育強調月間です。始まりにあたり、2日(火)に校長講話がありました。

全国中学生人権作文コンテストの中学2年生の作文「立ち止まる」を、動画で紹介していただきました。

小2の時、中学年の男子から嫌がらせを受け、「メガネ猿」と毎日クラスメートにからかわれたことで学校に行くのが怖くなった瑞生さん。そんな瑞生さんに、先生は「瑞生君は何も悪くない。人と違うところがあっても何も悪くない。メガネをからかう友達がいけないんだ。」と言葉をかけます。

瑞生さんの作文の後半部分の言葉を紹介します。



人の心の痛みは他人と比べることができない絶対的なものだ。(略)

言葉は、時にその人の心を深く傷つける。特に人と違う点や、人とは劣っていると思っていることを何度も言われているうちに、傷は深く、深くなる。言葉とは、他人にものを伝える上で大切な手段にも関わらず、何も考えずに発した一言で相手の胸の中に冷たく重い鉛の塊をも作り出してしまうほど、猛毒になり得るのだ。

一方で、言葉は他人を救う暖かい毛布にもなる。(略)

14歳になって僕は思う。人と話すとき、一度「立ち止まろう」と。これから僕が相手に言う言葉は毒になってしまわないか、それともほんの少しでも相手の気持ちを和らげたり、楽しくさせたりできるだろうか。毛布のような言葉で、相手の冷え切った感情を温めてあげることができるだろうか。

僕は立ち止まって、一呼吸おき、今日も友人や家族と言葉を通して、強くて優しい結びつきを築いて行けたらと思う。

校長先生から、「たった一言が人の心を傷つける。たった一言が人の心を暖める。」の言葉が各クラスに贈られました。

先日の休みに、校長先生が別所温泉の安楽寺に行き、購入してきたものだそうです。

今回のお話や各クラスに飾られた言葉を心にとめて、一人一人の違いや個性を認め合い、「私も楽しい、あなたも楽しい学校」にするために、自分は何ができるか、どうしていったらよいかを真剣に考えていく月間にしていきたいと思います。

